



しかはま自然観察会

# のらえもん

2022 年度

No. 7

2022. 09. 11

『 人も 自然も みんな友だち 』

第7回活動

稲刈り体験 13回目

3年振りの稲刈りでした。

鎌で稲を刈るときのサクサクという音。黄金に実った稲穂や葉がふれ合うサワサワという音。黒い土を飛び跳ねるカエルや穴から顔をのぞかせるアメリカザリガニ。見上げれば白いダイサギやシオカラトンボが目に映る。

額に汗をかきながらも、心身全体に心地よさが走り抜ける。たくさんの恵を、田んぼは育てているようだ。

1, 日 時 : 2022年9月11日 (日)

2, 場 所 : 茨城県常総市大生郷新田町1558  
宅間農園

3, 天 気 : 晴れ 気温 : 午前 4時 20, 2℃  
10時 30, 0℃  
11時 32, 8℃

4, 集 合 : 現地 (バス及び自家用車)

5, 参加者 : 総数46 家族16 内訳 大人 21  
小学 15  
幼児 4  
スタッフ 6

6, 活動内容 :

秋晴れの中、春に田植えをした所の稲を、鎌を持ってサクサクと刈り取りました。宅間さんは、作業をし易いように、その部分だけを残し周りをコンバインで刈り取ってありました。黄金色に実っている稲穂は、私たちが待っていてくれました。

鎌を持って田んぼの中へ。裸足で入る強者もいて、気分は一気に稲刈りモードです。初めての子は、なかなかまとまらない稲束に苦労していました。が、鎌の使い方や稲束の扱い方にだんだん慣れてきたようです。

稲刈りをしていると、黒っぽい色をしたカエルがたくさん飛び出してきました。土の中の穴には赤い色をしたアメリカザリガニが大きなハサミを持ち上げていました。バッタやトンボ、ダイサギも1羽見つけました。

約1時間で稲刈りは終了しました。その後は、コンバインによる脱穀を見学しまし

ました。宅間さんの話によると、だいたい200kgの収穫だということでした。お米にして、約3俵の収穫です。3人が1年間に食べられる量です。

その後、粃を乾燥機に搬入する現場を、見学させてもらいました。大きな乾燥機が2台並んでいました。乾燥機で、粃の水分を15%まで下げなければ出荷できないのです。そのためには、灯油100ℓを24時間燃やし続けなければならないそうで、最近の灯油の値上がりは大きな出費だと言っていました。

乾燥した粃を脱穀する機械や粃だけを1トン袋に入れる道具が、所狭しと並んでいます。

今日初めてこのようなお米になる最終段階を見せてもらい、のらえもんの皆さんは大きくうなずいていました。「ここまでして、やっと食べられるお米になるんだ！」という実感でした。

ちなみに、お米になるまでに使われる機械や道具などを、宅間さんの話をもとに私がおおよそ列記してみました。

食べられるお米になるまでに使われる機械や道具・肥料など

- ①田植機・・・・・・・・・・・・・・・・約 400万円
- ②コンバイン・・・・・・・・・・・・・・・・約1000万円
- ③粃すり機・・・・・・・・・・・・・・・・約 120万円
- ④乾燥機（1台200万×2台は必要）・・・・約 400万円
- ⑤コンバインで収穫した粃を乾燥機へ運ぶ車・・約 200万円
- ⑥玄米を14℃に保っておく保冷庫・・・・・・・・約 100万円
- ⑦粃を1トン袋に入れる装置・・・・・・・・約 50万円
- ⑧トラクター・・・・・・・・・・・・・・・・約1000万円
- ⑧その他必要なもの

肥料、農薬、苗作り

機械を動かす電気代、ガソリン代、灯油代 ？万円

ざっと見積もってもこれだけの初期費用がかかります。

農家を始めるなら「3000万円が必要」といわれることに、深く納得するのでした。

田んぼは、食料としてのお米の生産とカエルやトンボ・鳥などを育てること、たくさん水を張り洪水防止や地下水の保持、気候を和らげること、人々の気持ちを癒してくれる風景を作り出していることなどの環境保全の生産があります。田んぼをつくるということは、この二つの生産を同時に行っているのです。

しかし、食料としてのお米の生産には値段が付き、農家の方の収入となり再生産に投資されます。が、環境保全をしている生産は一切評価されず、収入にはなりません。その上、田んぼの収穫は、1年に1回だけです。気候にも変動されます。それなのに、原料を供給してもらいながら毎日生産でき気候には左右されないお菓子類と同等に比べられて「高い」「安い」と言われているのです。

「農家のなり手がいない」と言われる原因はここにあるようです。

消費者であるのらえもんは、田んぼの果たす自然環境の多面的な価値に気づき、もっともっと農家の方々を応援する必要があるようです。

7, ふりかえりの感想

- いねかりで、たくさんとれてよかった。

お弁当をたべられたから、たのしかった。次も参加したい。

ざりがにが いっぱいいたから とりました

王子小5年

- ザリガニがいて楽しかった。

トンボがとれなくて悲しかった。

ザリガニがこわかった。カエルも。

ザリガニが はさみがでかすぎ こわすぎた

王子小5年

- はじめてのいねかりだったけど、上手にかまをつかっけていねをかることができた。

だんだんこつをつかんできて、いっぱいとれた。

たのしいよ いねをたくさん とれました

王子小5年

- いねかりで、かるのが楽しかった。あと、たばねるのがむずかしかった。

お弁当を食べたあと、お寺（神社のこと）でかっている猫とあそんだ。猫がめちゃかわいかった。

田んぼでトンボとカエルとカマキリなどをつかまえた。大縄も楽しかった。またやりたい。

お弁当 みんなでこうかん おいしいな

王子小5年

- 今日は、稲かりをして、「かまに気をつけて」と、母に言われました。が、かまは、そんなにこわいものでは、なかったです。

次に、田んぼにカエルとザリガニがいました。取れました。かんたんでした。

また、行きたいです。

ザリガニは 穴からでると もどらない

みんなはね いねかりやめて あそんでた

王子小5年

- いねかりで20たばくらいかった。いっぱいかれておもしろかった。

江北小4年

- 天気に恵まれ、気持ちよく1日を過ごせました。

早くビール園も再開して欲しいですね。

ありがとうございました。

刈った稲の流れも理解を深めることができ良かったです。

ザクザクと 稲を刈る音 爽快だ

母

- いねかりをした。楽しかった。

からあげがおいしかった。帰りにゲームをした。

いねかりや ああいねかりや いねかりや

江北小4年

- いねかりでストレス発さんになってよかった。  
いねかりで ストレス発さん そうかいだ

江北小5年


- のらえもんを通してできた友だちと会えることを楽しみに、指折り数えていました。土や虫が得意ではない娘ですが、友だちと経験できたことで「楽しかった」「お米いっぱいとれたね」と言っていました。  
普段の生活ではなかなか経験させてあげることができない為、貴重な経験ができたことを嬉しく思っています。ありがとうございます。  
家に帰って、新米をたいて食べる事が楽しみです。  
食卓に 並ぶお米の ありがたさ

鹿浜こども園

- 田植えをしてからあつという間の3ヶ月……。今日を楽しみに、また参加させていただきました。  
稲刈りは楽しく、また改めて食べられるようになるまでの過程の大変さをちょっぴり体験でき、貴重な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。  
古高先生のお話も、いつも楽しく学ばせていただいています。芋掘り、楽しみにしています。  
青蛙 互いに驚く 稲刈り日

鹿浜こども園

- 前回植えた稲が生長し、大きく立派に育っていたことに驚きました。実際に稲刈りを経験して、稲を刈る大変さ、束ねたり脱穀をしたりと、お米を作る行程がこんなにも大変であることを実感しました。  
お米を大切に食べて、園の子どもたちにも、お米を食べる際に今日のことを伝えていけたらと思いました。ありがとうございます。

 秋めく日

みんなが刈った

稲穂かな



鹿浜こども園

- なかなか出きないことを楽しく出きたので、とてもいい1日でした。  
梅島小2年
- 都内に住んでいて、なかなか出来ない経験をさせてもらい感謝です。  
黄金色 輝く田んぼの 米宝

鹿浜こども園

- いねかりは思ったよりたいへんでした。少しいへんでしたが、とても楽しかったです。

きかいもはじめて見たので、とても大きくてびっくりしました。

いねかりは たいへんだけど 楽しいな

新田小3年

- みごとな稲穂を見るだけではなく、自分たちで植え、この手で刈れる貴重な体験をさせていただきました。

かまの切れ味、身にしみて体験しました。自分で体験してわかることがあり、この体験を、今日この場にいる子どもたちだけでなく園の子どもたちにも伝えたいと思います。

なによりたのしかったです。

稲刈りで 学んだ痛みは 宝物

稲の束 渡す稲穂に 思いやり

(やればやるほど、受け取る人への渡し方を考える子がいました)

鹿浜こども園

- 自分たちが植えた苗がしっかり育っていて、うれしかったです。

お米クイズも楽しかった。

保育園での稲刈りも、子どもたちと楽しめるよう工夫したいと思いました。

ありがとうございました。

田の中に 素足で入り 稲を刈る

中島根保育園

- よすぎるくらいのお天気のもと、汗にまみれながらの稲刈りで無心になって作業することで、スッキリ爽快になりました。

しかし、これを仕事としている農家の方は日々大変なことが多く、今日のために準備して下さったことに本当に感謝です。ありがとうございました。

三年ぶり 刈り取る我が身に 老い気づく

障がい福祉センターあしすと

- 久しぶりの稲刈りでしたが、体が覚えていました。

稲穂と新米を園に持って行って子どもたちに見せ、教えていただいたクイズをやってみようと思いました。

風渡る 稲穂の波に 光る汗

元宿こども園

- 4ヵ月後の田んぼに稲穂垂れひつじ雲と共に稲を刈る

- 稲を刈るそばからカエルザリガニが田んぼの好きな生き物たち

- 稲を刈りカエルと遊ぶ子どもたち田んぼの学校学びはいっぱい

- もったいない落ち穂を拾う大人たち一粒の米一年の計

古高 利男

追記：稲刈りのとき、子ども1名が鎌で手を切りました。すぐ応急処置をし、大事には至りませんでした。保護者の方には大変申し訳なく思います。また、応急処置をしてくださり心配していただいた皆様に感謝申し上げます。